佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

西三川砂金山(6) ― 大久保山城と西三川 ―

金は、水の19・3倍の比重があります。この特徴を利用して、比重選鉱という方法(砂金流し)で、砂金を採取しました。このため、西三川砂金山では、砂金流しの水を確保する必要がありました。

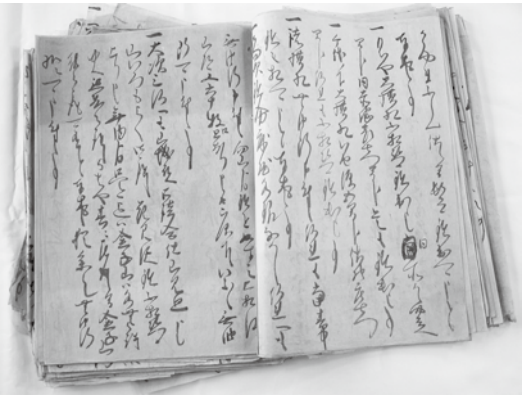
慶長11(1606)年から14(1609)年頃の史料には、「年内よりただ今までは、金子山(砂金の採取場所)は水無く御座候ゆえ悪しく御座候が、はや春に罷り成り候間、金子山よく御座あるべくと存じ奉り候」と、雪解けを待たないと砂金採りができない様子がうかがえます(「川上家文書」)。

「佐渡古実略記」の慶長18(1613)年の記事を見ると、「西三川へ両人(田辺十郎左衛門・安藤弥兵衛、いずれも佐渡代官)御越し候て関場見分なされ、新関仰せ付けられ」と、新たな関を設けたことが記されています。このため、「水丈夫に掛り、御運上も上がり申すべく由、もっともに候」とあります。

田辺十郎左衛門という人物は、大久保長安の家臣で、宗岡佐渡や小宮山民部とともに慶長8(1603)年に佐渡に派遣され、大久保山城と改名し、民政を担当していました。長安没後は、田辺姓に再度改め、元和4(1618)年、竹村九郎右衛門・鎮目市左衛門両奉行が着任するまで、代官としてその任を果たしています。

慶長年間の佐渡金銀山史料を集めた「川上家文書」には、山城が度々登場しているので、西三川砂金山や相川金銀山などの鉱山運営の中心的人物であったといえるでしょう。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内)☎63―5136



大久保山城が、大須銀山や西三川砂金山を視察していることが書かれている(「川上家文書」)

佐渡ジオパーク

ジオパーク、推進日記 47

公式ロゴマークおこし型

佐渡の伝統的な郷土料理に「おこし型だんご」があります。

ひな祭りの行事などに合わせて作ることが多く、うるち米やもち米の粉をこねて、桃色や緑、黄色などの色に染めた団子生地を作り、花や動物などをかたどった型に詰めて型抜きした後に、椿の葉に乗せて蒸した素朴な味わいの団子です。

島の中でも「しんこ」「かただんご」「おこしだんご」など、いくつか呼び名があるようです。

ジオパークを小さい頃から知ってもらおうと、今回、佐渡ジオパークのロゴマークをかたどったおこし型を製作し、希望する島内の保育園・幼稚園に配布しました。

2月13日には、金井新保保育園へ学芸員が訪問し、園児たちと一緒におこし型だんごを作りました。おこし型体験の合間に、園児たちは、「しんこの材料である粉は、みんなが暮らしている島と全部関係しているんだよ。」という学芸員の話を興味を持って聞いていました。

私たちは、目の前にある食材だけに注目してしまいがちですが、その土地で育った食物には、その土地の特徴が反映されています。食べ物からジオパークを理解する活動が全国でも広がっています。

佐渡ジオパークのロゴマークおこし型は、真野体育館や羽茂公民館など5つの施設に保管してあります。一般の方へも貸出していますので、この機会にぜひご利用ください。

◆教育委員会社会教育課
ジオパーク推進室(佐渡博物館内)
☎52―2447